

---

2019年2月24日(日) 国崎 イワシの泳がせ釣り 功成丸 一人で  
中潮:旧1/20 干潮 02:55(30cm) 満潮 09:04(186cm) 干潮 15:21(41cm) 鳥羽  
ヒラメ 55cm 1尾 マウダイ ~42cm 3尾 ガシ 1尾

---

4時30分 現地着	9時04分 満潮(鳥羽186cm)
5時30分 釣り座抽選	11時30分頃 沖上がり
6時00分 出船	

【料金】 乗り合い 12,000円 仕掛け、氷付き 釣り座は抽選

【仕掛け】 電動リール シーボーク300J 竿 YOIKA BB 7:3 おもり80号  
道糸 PE 3号 リーダー フロロ 7号 4ヒロ(6.4m) PEとリーダーの結びは誠哉ノット  
竿受け イワシ用網 魚を絞めるためゴム手袋  
サービスの仕掛け ハヤブサ製 2セット入り 船上では500円  
ハリス 7号85cm 幹糸 8号100cm 捨糸 5号45cm  
親鈎 丸セイゴ18号 孫鈎 トレブル6号

#### 【様子】

- 寒いこと、体調がすぐれなかったことから、3ヶ月ぶりの釣行である。
- ブリがたくさん釣れている日があったことから、功成丸に行くことにした。
- 天気がよい、風があまり吹かない、波もあまりたたないことを天気予報で確認して、前日の正午ごろ予約を入れた。当日はほぼ満席だった。
- 天気は晴れ、風が少しあった。
- 4番くじを引いた。左舷で大艦に入った。
- 前日はブリが2本あがっただけとのこと。期待が持てない。船中2本、自分にも割り当てがあるといいのだが…。ブリか、ヒラメのどちらか1尾と、何かしら2尾釣れると良いと思っていたが、釣果が、良型ヒラメ1、マウダイ3、ガシ1だったことから、上等であった。
- ヒラメを狙うなら底近く、ブリを狙うのも底近くなのか、ベイトのいる上層か中層か、どこなのだろうか。とにかく、根掛かりしないように気をつけながら、底を確認したら、2~3回リールを巻くことにした。
- ヒラメなら、前当たりがあつて、グッと持って行ったら合わせる。
- ブリなら、いきなり竿が曲がるだろう。
- 水深は40mくらい。
- 1投目から当たりがあつた。グッと持って行つたので巻き合わせた。マウダイだった。マウダイは餌を丸呑みしていた。後の1尾も丸呑み。鈎を外すのに苦労した。最後の良型マウダイは鈎が口元に掛かっていたから外しやすかった。
- 反対側で、ブリを上げた人がいた。(結局、ブリは船中1尾だった。)
- 沈黙が続いた。移動となった。周りの景色からすると鳥羽湾口だろうか。水深は80mもあった。
- 当たりがあつて、グッと持って行つたので巻き合わせた。「釣れた」と叫んだが、スタッフが来てくれない。近くにあった網を使って自分ですくった。良型のヒラメ(55cm)だった。
- 着底とともに当たりがあつた。仕掛けが底に着く、すぐに当たりか? 底から仕掛けを上げようと少し巻く。やっぱり、当たりがある。巻き上げた。途中でばれた。おそらく、ヒラメだっただろう。型は先ほど釣ったのより小さめだと思われる。竿が確実に引き込まれるまで待つべきだった。残念。
- 9時ごろ、ガシが釣れた。周りでも何かしら当たりがあつたり、釣れたりしている。振り返ってみると、潮

がわりで、活性が上がったのは、この一瞬だけだった。予報の潮止まり時刻とほぼ同じだった。この活性が上がったまま時間が進むのかと思ったが、これで終わりだった。

- 小さな当たりがあった。その当たりが続く。グーッと持って行かない。少し大きめの当たりで合わせた。乗らなかった。餌のイワシをみると、頭と背びれの間に傷があった。イカではないだろうか。
- 沈黙が続く。移動となった。最初の場所のようだ。水深40mくらい。
- いきなり、グーッと持って行かれた。ブリか…。根掛かりだった。仕掛けを丸ごととられた。
- 終了まで1時間を切っていた。仕掛けを購入して、気分を入れ替えて釣ることにした。
- しばらくして、当たりがあり、グッと持って行った。マトウダイだった。餌は丸呑みだった。終了時刻まであとわずか。鉤を外すのが大変だった。
- いよいよ、残り時間わずか。当たりがあった。グッと持って行った。先ほどより引きが強い。良型マトウダイ(42cm)だった。
- 11:30分、納竿となった。

次回に向けて

- ドラッグ調整は、道糸を指に巻いて、思い切り糸を引き出すと出てくるくらいの堅さにした。これで良い。
- 根掛かり防止のため、投入直後はリールを3回巻いた。底の取り直しでは2回だった。これで良い。錘よりも鉤が下に下がる仕掛けになっていることから、もう少し巻き上げても良いかもしれない。
- 親鉤をイワシにつけると、口の中から上あごに抜く方法と、鮎釣りのように鼻掛けする方法を試したが、鼻掛けの方がイワシの弱りが少ないように思った。
- 良型を狙うのは、やはり、餌のイワシは大型の方がよいように思う。
- 仕掛けは一人3セットずつ、自作して持って行きたい。

※ この日の夜に、釣り番組で落とし込み釣り(たて釣り)をやっていた。サビキでイワシを釣り、イワシがついたらそのまま仕掛けを落として、大物(青物)を釣るという釣り方である。ベイトが上から底までびっしりと魚探に写っている様子が映し出されている。。このベイトの下に青物がいる。サビキでイワシをかけたならそのまま仕掛けを底まで落とす。根掛かり防止のため、底から2m仕掛けを上げていた。大型のヒラマサをたくさん釣っていた。以上のことから、イワシの泳がせ釣りも青物ねらいであっても底で釣るということであろう。ブリもヒラメも底で釣るということである。

※ 誠哉ノットの強度で十分だ。

根掛かりで仕掛けを切ったところ、リーダー先のスナップ付きサルカンの結び目で切れた。スナップ付きサルカンを含め全て失った。リーダーがすっぽ抜けたり、PEとリーダーのところで切れた訳ではない。以上の事からすると、PEとリーダーの結束は誠哉ノットで十分である。

誠哉ノットの長所:簡単に結べる

誠哉ノットの短所:結び目が大きくなり、竿のガイドを通りにくい。

竿「YOIKA BB」のガイドには、フロロ7号が何とか通る。フロロ8号では通らない。

仕掛けの道糸が8号であることから、リーダーは9号か8号を付けたいが…。

※ 誠哉ノットの結び方

- ①フロロで輪を作り、フロロの先端をその輪に2回通す。
- ②フロロの先端が通ってきた道をPEの先端が逆に進むように、PEの先端をフロロに絡める。
- ③フロロとPEを共に持ち、90%まで、締め付ける。このときラインを水でしめらせる。

- ④PEをフロロを軸にして打ちかけ結びをする。輪に通すのは10回。
- ⑤最後まで締め付ける。

